

診断士にいがた SOUP LETTER

発行／一般社団法人新潟県中小企業診断士協会

第 26 号／令和 3 年 9 月

URL <https://www.n-smeca.jp/>

TEL 025-378-4021

FAX 025-378-4022

中小企業診断士への期待と

コンプライアンスの徹底

一般社団法人新潟県中小企業診断士協会

会長 土田 正憲



去る 8 月 31 日、経済産業省から令和 4 年度の概算要求が公表されました。中小企業・小規模事業者関係では、コロナ禍における資金繰り、事業の再構築・承継・再生の支援、生産性向上などが基本的な対応の方向性となっています。注目すべきは、1 兆円超の予算規模による事業再構築補助金が継続されること。また、事業承継ガイドラインの改訂、事業引継ぎ後の経営統合（中小M&A後の経営統合）に関するガイドラインの策定のほか、事業再生のための私的整理等のガイドラインの策定を検討する旨が示されたことです。新型コロナウイルス感染症への対応として、資金繰りの支援と同時に、中小企業・小規模事業者の新分野展開や業種・業態転換等を後押しする。これは我が国の産業構造の転換へとつながるものと考えます。

このようななか、中小企業診断士の役割はこれ

まで以上に大きくなっており、中小企業・小規模事業者をはじめ支援機関、金融機関などからの期待も大きくなっています。

さて、新潟県中小企業診断士協会では、令和 3 年 3 月に、以下の「コンプライアンス宣言」を策定しました。

1. 法令順守

協会役職員及び会員中小企業診断士は、業務を遂行する際に関係する法令等を遵守します。法令等とは、法律、政省令及び通達、並びに協会の定款、倫理規程をはじめとする各種規程類を言います。

2. 業務上の相手方等との健全な関係

協会役職員及び会員中小企業診断士は、業務上の相手方に対し、倫理規程等に基づき、違法行為等幫助、利益相反行為、地位利用等の禁止行為を行わず、公平、誠実に行動します。

3. 情報の適切な管理

協会役職員及び会員中小企業診断士は、法令に基づく守秘義務を全うするため、業務上知りえた秘密及び個人情報等を厳重かつ適切に管理します。また、権限のない利用や第三者への提供は行いません。

4. 人格の尊重

協会役職員及び会員中小企業診断士は、社会の一人一人の個性と人格を尊重し、いかなる差別、ハラスメントも行いません。

5. コンプライアンス意識の徹底

協会役職員及び会員中小企業診断士は、継続的な注意喚起、定期的な研修の実施等コンプライアンス意識の喚起、浸透に積極的に取り組みます。

中小企業・小規模事業者の経営支援に対する期待に応えるため、我々会員中小企業診断士は、コンサルティング知識の向上のみならず、高い倫理観と責任感をもってコンプライアンスを遵守し、誠実に行動いたします。

協会活動報告

理論政策更新研修 新潟

研修委員長 平野 康晴

令和3年8月7日(土)、新潟グランドホテルにおいて、当協会主催による第1回理論政策更新研修を開催しました。コロナ禍ということもあり、例年よりも広い会場を使用するなど、新型コロナウイルス感染防止対策を徹底して実施いたしました。



研修内容

1. 「(公財) にいがた産業創造機構について」

講師：(公財) にいがた産業創造機構

統括マネージャー 庭山義彦氏

NICOの組織概要、新潟県内の経済情勢、NICOの支援施策などについて、わかりやすくご説明いただきました。

2. 「中小企業の新規事業展開支援」

講師：有限会社タカザワ企画

代表取締役 高澤彰氏

ウィズコロナ・アフターコロナを見据えた、中小企業診断士の新事業展開支援について、事例を交えながら、熱心にご教授いただきました。

3. 「農業帝国南魚沼からの製造業のチャレンジ」

講師：hakkai 株式会社

代表取締役 関聡彦氏、取締役 宮坂重寿氏

海外進出や、ロボット事業参入にいたる経緯・苦労・葛藤を生々しく、赤裸々に披露していただきました。

講師の皆様のおかげで、役に立つ研修となりました。この場をお借りして、お礼申し上げます。

委員会報告

総務委員会

委員長 岡田 正博

ご時世的に何を見てもコロナウイルスの話になっていると思いますが、当協会の活動もコロナの影響でかなり制限を受けています。そのため、総務委員会の出番も非常に少なくなっているのが現状です。

総務委員会は理事会の議事録作成のほか主に定時社員総会と新春講演会・新年会の運営を担当しているのですが、これが昨年から開催できておりません。(私自身はラクしていると言われても否定できませんが) 協会としてはかなり困った事態です。けっこうギリギリまで開催の方向で動いて、いつも土壇場で急にコロナくんが活動を活発化して状況が変わり、中止となっています。弄ばれているかのようです。

協会員が参加するイベントは数がそんなに多くなく、これらの行事が中止になるとせっかく新たに入会してくださった新入会員の方が活動に参加できず、「協会に入っても何もなかった」ということになってしまいます。中小企業診断士ライフを有意義なものにするためにも、行事を開催していきたいところです。

それともう1つ困るのが、年に何度かあるSoupLetterの原稿。そう、これです。活動がないと書くことがない。前々回はスペースを埋めるためにこれまで避けてきた写真まで掲載しましたが、非常に不評でした。理由をきいてみたら「ジャーナリスト事務所の会報と間違えるから」だとのこと。

と、活動がないとこんな三遊亭小遊三のネタのような内容でお茶を濁すことになってしまいます。早くコロナが収束して、大きな会合を開催したいですね。

研修委員会

委員長 平野 康晴



研修委員長の平野康晴です。本年度もよろしくお願いたします。研修委員会の活動を通じて、新潟県中小企業診断士協会、ならびに新潟県内中小企業の発展に尽力して参る所存です。ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いたします。

本年度の研修委員会は、以下の活動に重点を置き取り組んで参ります。

- ① 第1回理論政策更新研修（新潟会場）の企画・運営
- ② 1次試験受験対策講座の企画・運営
- ③ コンプライアンス研修受講の推進

上記のほかにも、会員はじめ、関係機関の方々のお役に立てる研修・セミナーを随時実施していく予定です。ご意見・ご要望をお寄せいただければ幸いです。

事業開発委員会

委員長 和栗 聖



平素は、事業開発委員会の活動にご理解ご協力をいただきありがとうございます。事業開発委員長の和栗と申します。この場をお借りして、当委員会の今期現時点の活動実績をご紹介します。

今期は、昨年来から引き続き実施している金融機関及び商工会等の支援機関との連携強化を図ることを目的として、当協会会員を専門家として派遣を行う事業を実施しております。あわせて、支援機関からの依頼によるセミナー講師派遣事業も実施しております。7名の委員会メンバーにより運営しておりますが、随時メンバーを募集しております。ご興味のある方は、お気軽にお声がけください。

広報委員会

委員長 佐野 盛也



いつも大変お世話になっております。佐野です。本年度も広報委員会を担当させて頂くことになりました。宜しくお願致します。活動方針につきましては、今まで通り、「1. 外部関係者に対し、

協会活動並びに協会会員の情報発信を進めることにより、中小企業診断士の認知度向上を図る」、

「2. 協会会員に対し、協会活動の他、診断士活動に関する有益な情報を提供することにより、協会会員の資質向上に寄与する」の2点としております。今年度は、井村吉孝会員、小林和之会員、長谷川貴一会員、山崎寛和会員、佐野盛也の計5名で広報委員会活動を行って参ります。会員の皆様には色々とお願事をさせて頂くこともあろうかと思いますが、引き続き、ご協力のほど宜しくお願ひ申し上げます。

20年表彰 近藤信会員

令和3年5月29日に開催された社員総会にて、長年にわたり中小企業診断士制度の普及に多大な貢献を果たされたことを表し、当会の近藤信会員に対し、中小企業診断協会より表彰状と記念品が授与されました。



土田会長（左）・近藤信会員（右）

研究会報告

企業再生支援研究会

代表 上村 修



昨年度に引続き、今年度も企業再生支援研究会の代表に就任しました上村修です。よろしくお願いいたします。

今年度の活動については、第1回研究会を7月17日(土)に実施し(写真)、小山直久会員から「コーチングアプローチによる企業再生事例」と題して、実際の支援事例を題材に講演を行って頂きました。

2回目以降もテーマ別、業種別等の実践的な研究会を予定しております。

コロナ禍の収束が見えない状況で、企業再生支援の重要度は高まっており、実際の支援業務に役立つ研究会を目指してまいります。

【会員メンバー(敬称略・掲載承諾者のみ掲載)】

相澤 純	阿部 哲也	板垣 正敏
伊藤 祝	井上 芳	井村 吉孝
江部 誠一	太田 竜	岡田 正博
金井 信雄	上村 修	鎌田 晃博
銀山 敏行	工藤 泰暢	小林 和之
小山 直久	近藤 信	齋田 陽子
佐野 盛也	白倉 雅晴	鈴木 俊雄
辰喜 太輔	田邊 直樹	田村 昌美
土田 克則	土田 正憲	中村 公哉
布川 夏輝	長谷川 伸一	長谷川 学
樋口 圭治	平塚 幸雄	平野 康晴
山崎 寛和	山崎 勝雄	横山 康之介
和栗 聖	渡邊 重仁	

(全会員数 38名)

事業承継・中小M&A研究会

代表 土田 正憲



8月28日(土)、長岡市のアトリウム長岡において、令和3年度第2回理論政策更新研修を開催しました。この研修は当研究会が企画・運営を担当しました。

テーマは「中小企業の事業承継支援」。新潟県事業承継・引継ぎ支援センターの統括責任者代理・サブマネージャー松尾 隆氏より「新潟県事業承継・引継ぎ支援センターにおける事業承継支援について」のご講演をいただいた後、「個人事業主の事業承継支援」に焦点をあて、当協会の平野康晴会員と辰喜太輔会員が中小企業診断士と税理士の各々の視点から支援のポイントを説明しました。その後のパネルディスカッションでは、両会員のほかに事業承継を経験された増田切出工場の代表・増田吉秀氏と(株)MASAYAの代表取締役・山田拓也氏、さらに、中小企業支援機関である新潟県商工会連合会広域指導センター所長の岩本文明氏がパネリストとして加わり、個人事業主の事業承継とその支援について率直にお話しいただきました。

事業承継の支援者研修は多々開催されていますが、そのほとんどは株式会社を対象としています。中小企業診断士は個人事業主の支援も多いうえ、その事業承継の支援においては株式という概念がないことから少し戸惑ってしまうという声を耳にします。このようなことから今回のテーマが設定されました。

実務従事ポイント研究会

代表 平野 康晴

実務従事ポイント研究会は、令和2年度に発足したばかりの新しい研究会です。診断実務に携わる機会の少ない企業内診断士の方を主な対象に、診断能力向上と実務従事ポイント取得の機会を提供する活動を行っています。現在、14名の会員が所属しています。

令和2年度においては、2件の診断実習を実施し、診断先企業様からも、参加者の皆様からも好評をいただき、意義ある研究会活動ができたことを認識しています。



前年度の診断実習の様子

今年度も、充実した診断実習が開催できるよう関係各所と調整しているところです。診断実習の実施概要が決まり次第、研究会会員をはじめ、協会の皆様にも、ご案内させていただく予定です。

実務従事ポイント研究会では、単に実務従事ポイントを獲得するためではなく、実戦経験を積むことで、コンサルタントとしてのスキルの向上を目指しています。研究会の目的にご賛同いただける方々の参加を、いつでもお待ちしております。お気軽にお声がけください。

なお、本誌発行時点では、以下のメンバーで活動しています。(五十音順、敬称略)

相沢純、阿部哲也、鎌田晃博、銀山敏行、工藤泰暢、小山直久、齋田陽子、田邊直樹、田村博康、土田克則、土田正憲、長谷川伸一、平野康晴、山崎寛和

青年部会

会長 長谷川 貴一



青年部会の長谷川です。青年部会は、令和2年度と同様、会員相互の交流や情報交換を目的として勉強会や会合を行っています。

近年は新型コロナウイルスの影響もありオンライン会議システムを活用しながら、勉強会や連携事業の意見交換、打ち合わせ等を行っています。

現在、青年部会で力を入れている事業は2つあります。ひとつは、新潟県中小企業青年中央会の他組合との連携事業です。本年度は新潟県味噌醤油工業協同組合青年部様とSDGsを学び、味噌醤油工業協同組合の会員企業がSDGsを取り入れるための支援を連携事業として行っています。中小企業診断士として企業の取組を支援するとともに、私たちも一緒にSDGsを学んでいます。次に、東京都診断士協会と連携して取り組んでいる事業です。新潟食料農業大学の先生が自身の研究するオリジナル麴の事業化や商品化を目指し活動を行っています。東京都の中小企業診断士と協力してアイデア立案をしました。今後も継続した取り組みを検討しています。

青年部会は今後も様々な取組を行っていきます。ご興味のある方はぜひご連絡ください。

青年部会員（五十音順、敬称略）

相沢 純	阿部 哲也	鎌田 晃博
小林 和之	小山 直久	齋田 陽子
佐野 盛也	鈴木 俊雄	田邊 直樹
土田 正憲	長尾 彰久	布川 夏輝
樋口 圭治	平野 康晴	森 祐策
山崎 寛和	横山康之介	和栗 聖

診断士になりたい人を支援する会報告

診断士になりたい人を支援する会

代表 土田 克則

「診断士になりたい人を支援する会」と称して、受験生を支援した後、飲み会で親睦を深めることを目的とした会です。「アルコールを伴う飲食」が開催しにくい状況であるため、昨年度から積極的な活動はしていませんでしたが、昨年は、1次試験が行われたことで、急遽、活動を開始いたしました。今年もやはり1次試験が行われたので、急遽、活動を再開することといたしました。以下の日程で開催いたします。広報誌が皆様の手元に届く頃には、既に終わっているかもしれませんが、興味のある方は、是非、ご参加ください。診断士の資格や試験に興味がある方は、いつでも連絡いただいても構いません。

○9月18日13時30分～17時

「2次試験問題の解き方を研究する会&座談会」

・令和2年度 事例Ⅰの研究と座談会

○10月2日13時30分～17時

「2次試験問題の解き方を研究する会」

・令和2年度 事例Ⅲ、事例Ⅳの研究

○10月16日14時～17時

「2次試験問題の解き方を研究する会」

・令和2年度 事例Ⅱの研究

おじさん、おばさんのワクチン接種も進んでいるので、10月には、本来の目的である懇親会を開催できないか、と期待しております。

ご興味のある方は、私までご連絡ください。また、診断士を目指している人に、この会の存在を広めていただけますようお願いいたします。

○連絡先

診断士になりたい人を支援する会代表 土田克則
tsuchida0806@yahoo.co.jp TEL : 090-2739-9863

以下、会のメンバーです。

土田克則、土田正憲、佐野盛也、小山直久、
内藤光輝、鎌田晃博、平野康晴、白倉雅晴、
岡田正博、小林正和、樋口圭治、小林和之、
和栗聖、田邊直樹

私のこだわり

鎌田 晃博



麻雀との出会いは、小学生の頃にNECのパソコンで始めたのがきっかけですが、中学生からは友人とも卓を囲み、大学ではさらに豊富な面子に恵まれ、麻雀を通じて様々な人との出会いの機会を与えてくれました。

社会人になってからも、渋谷のフリーを主戦場とし、職場の先輩後輩とも卓を囲んでいましたが、12年前に新潟へ転居し薬局業界で働くようになると、周りも自分もすっかり健康的になり、プレイする機会も無くなってしまいました。

しばらくご無沙汰の麻雀でしたが、仕事柄高齢者との関わりが多くなる中で、脳トレ的に頭を動かしたい方や、独居で過ごす高齢者への健康サポートに役立つのではと、再び「健康マージャン」として注目することとなり、2年前から任意団体を立ち上げて活動しています。

実際に初めて見ると、高齢者向けのエンタメコンテンツとしては非常に優秀で満足度も高く、特に参加リピート率が非常に高いという傾向がありました。(一応私も講師をしています。)

初心者女性が多いのも特徴ですが、中には勝手に講師を始める男性や、変なルールを押し通す方など、「昔取った杵柄」的な方もいて、時にカオスな状況になりますが、概ね楽しんで終わることが多いです。

現在は新型コロナの影響により活動は限定的ですが、感染拡大終息後は、好機が訪れると踏んでおり、今後は公共施設での活動のほか、弥彦や湯沢などの温泉観光地も利用した大会開催や、全国大会予選も実現し、さらには法人化もできればと思っています。ご興味ある方は、是非HPもご覧ください。(<https://echigo-kmj.com/>)

白倉 雅晴



私のこだわりは、ビジネスの課題解決のために本を読む場合は、同じテーマの本を2冊以上読むように心がけていることです。

主に1冊の本の主張を鵜呑みにしないようにするためですが、読みにくい本で理解できなくとも、別の本

で理解できるという副次的メリットもあります。ビジネス書は著者が調査・経験したことを熟慮して一冊の本に仕上げていますから、未経験分野の事前知識をつけるには有益です。

中小企業診断士資格を取得してからビジネス書を多く読むようになりました。私は企業内診断士ですが開業届を税務署に提出しているので、ビジネス書は経費計上しています。したがって、読んでおこうと思った本はなるべく購入しています。経費計上するには領収書が必要なので基本的にはアマゾンを利用しています。

しかし、アマゾンでは中身が確認できません。したがって「試し読み」で目次や前書きを確認するか、評価を吟味するかしありません。

そこで私のお勧めは図書館の利用です。私が住んでいる新潟市では「新潟市の図書館」というHPでお目当ての本が検索でき、最寄りの図書館での受け取り予約ができますので、もっぱらそれを利用しています。2冊3冊借りても心理的負担はありませんし、最後まで読む義務感も生じません。

ただし、人気のある本は図書館で予約しても順番がなかなか回って来ませんので、読む意欲が優先するなら購入せざるを得ません。

図書館で借りた本を手元に置いて後からも読み返したいと思った場合は購入することも間々あります。購入する時は中古本を探してからにしています。

大滝 勇一

中小企業診断士（以下：診断士）の代表的な仕事内容として、①「診る」（コンサル）、②「話す」（セミナー、研修）、③「書く」（執筆）の三つが必要であると言われます。企業に勤務経験があれば、「診る」、「書く」は、それほどハードルは高くないとは思いますが、人前で「話す」ことは、それなりの準備、練習、経験が必要かと思えます。私も、いろいろな機関から講演、セミナー、研修講師の依頼を受けるたびに、不安を解消するため、そのテーマ・内容に関する専門書や業界本などを購入し、知識武装を重ねてきました。10年ほど経過すると、それら書籍の購入も必要なくなり置き場所に苦労していた書籍の山を処分しました。それでも、捨てずに残している書籍があります。それは、講師としての心構えの参考書籍として、「はじめて講師を頼まれたら読む本」、「講師を頼まれたら読む台本づくりの本」（大谷由里子著・中経出版）のシリーズです。著者の大谷氏は、吉本興業で故・横山やすし氏のマネージャーを務めたことで注目を集め、退社後は、研修会社でプロデュース活動や講師として活躍しています。両書籍では、講師を引き受けた際に、やるべきこと、聞き手に感動を与えるためのノウハウ、アイデアなど惜しげもなく披露しています。また、人を惹きつける話し方ができるかどうかは、「台本づくり」（事前準備）で9割が決まることを強調しています。講演・セミナー・研修は、目的、対象、内容は異なりますが、講師は、聞き手や受講生の時間を束縛するわけですから、その役割は重要です。時間があれば、テーマ・内容に関わらず他の講師のセミナー・講演などを聞くことで、聞き手を引きつける最初の「ツカミ」、ネタなども参考になります。さらに、自分だったら、タイトルはこのように変える、こう話す、内容・カリキュラムを変えるなど勉強の場になります。最後に、「話す」に限らず、診断士の仕事は、すべて事前準備が重要なことは言うまでもありません。

佐野 盛也

企業支援のなかで常に（今も）持ち続けている私の悩みは「改善の方向性を示せても、なかなか会社全体の動きに結び付かない」ということです。その原因の一つに「社員を巻き込むことができていない」と考え、解決の糸口を探すために手に取った本が、「社員の力で最高のチームをつくる＜新版＞1分間エンパワーメント」（ケン・ブランチャード他著：ダイヤモンド社刊）です。

本書では、「エンパワーメント」は、自律した社員が自らの力で仕事を進めていける環境を作ろうとする取組みであり、エンパワーされた社員は、仕事にも生活にも強い目的意識をもって取組み、会社の仕組みや業務の進め方を改善し続ける原動力となるため、組織と自分自身の両方に利益をもたらすと記載されています。そして、エンパワーメントには鍵が3つあるとしています。

1. すべての社員と情報を共有する

会社の業績全般に関する情報を、会社の全員と共有する。「情報の共有は危険」という考え方自体が、エンパワーメントを阻害する。なぜなら、重要な情報を共有することは、相手への信頼を伝える一番の方法。信頼がエンパワーメントの基礎。

2. 境界線によって自律した働き方を促す

我々の事業は何か、事業を進めるにあたり指針は何か、どんな将来像を思い描くのか、何を、いつ、どこで、どう達成するのか、だれが何をするのか。タスクではなく、目的（境界線）を与える。

3. セルフマネジメント・チームを育てる

全員が、チームとしての意思決定、対立の解消、チーム活動への参加状況のチェック、チーム内でのリーダーシップの共有などチームスキルを学ぶ。

業績全般に関する情報を共有するなど、実際の企業支援の場においてためらう場面も多々ありますが、エンパワーメントの要件を知り得たことは大きな学びであり、実践を通して、エンパワーメントの実現を図りたいと思っています。

クリップボード

- ◆令和3年11月24日（水）
中小企業診断士の日イベント
- ◆令和4年1月29日（土）
新春講演会および新年会

編集後記

広報委員会

広報誌の執筆にご協力を頂きました皆様、広報誌の発行のため、校閲・編集作業にご尽力頂きました広報委員会メンバーの皆様、本当にありがとうございました。おかげさまで無事に「SOUP LETTER 第26号」を発行することができました。改めて感謝申し上げます。

すっかりと夜の時間が長くなってきました。皆様はいかがお過ごしですか。

秋の夜長に思うことを一つ。

最近、1日1日をしっかりと完了させることなく、次の日を迎えることが多くなってきていると感じます。「やろうと思ってやっていないこと」、「やめようと思ってやめていないこと」、「何か引っかかっていること」すべて未完了です。

未完了な出来事を思い出すたびに何かしらの感情的な反応（多くは、やり残しからくる気持ち悪さ・焦り・ザワツキ）が起こり、その反応への対処にエネルギーが使われ、自己を疲弊させるといわれています。実際、未完了の状態が多いときは、前進するエネルギーが不足している気がします。

気持ちを整え、エネルギーを前進のために使うには、1日1日をしっかりと完了させることが必要なのですが、そのための解決策は、結局、自分に厳しくすることなんだな・・・と未完了のまま、お酒を飲みながら。